



オンライン開催  定員120名

私たち一人一人が担う 多様性豊かな社会とは？



日本で暮らす在留外国人数は2025年末時点で412万人。神奈川県内では30万人を超え、過去最高を更新しています。言語や文化、背景の異なる人どうしがともに暮らし、ともに社会を担う未来はどのように描くことができるのか、ちがいを豊かさに変えていくには何が必要なのか——。多文化共生社会に向けて、一緒に考えてみませんか。

SEMINAR 1

「外国人」とともに生きる、 私たちのこれから

少子高齢化・人口減少が進む中、これまで以上に多くの「外国人」が来日し、住民として身近に生活するようになっていきます。いまに至る状況はどのように進んできたのでしょうか。現在どのような課題があり、どのような取組が進んでいるのでしょうか。そして、私たち自身はこれからをどのように考えていくことができるでしょうか。専門職によるネットワーク組織のコーディネーターとして全国各地で多言語による情報提供や相談、日本語教育、研修など様々な活動に関わってきた講師と一緒に考えます。

講師

新居 みどりさん

NPO 法人国際活動市民中心 (CINGA)
コーディネーター



日時

2026年

8月25日(火)

18:30-20:00



申込締切

2026年

8月22日(土)

申込み
フォーム



SEMINAR 2

日本人も「移民」だった ～移動の歴史から考える多文化共生～

日本にやってくる外国人住民との共生に注目が集まっていますが、日本人の海外移住にも、鎖国状態の終了以来、150年以上の歴史があります。特に1990年代以降南米・中米諸国から来日し、日本で暮らす人々の中には、移住した日本人の子孫である日系の方々とその家族も少なくありません。

かつて国境を超えた人々は、どのような背景のもとに移動し、どのような経緯をたどってきたのでしょうか。その移動の歴史から、改めて現在の多文化共生を考えます。

講師

長村 裕佳子さん

ノートルダム清心女子大学
国際文化学部 講師



日時

2026年

9月26日(土)

10:30-12:00



申込締切

2026年

9月23日(水)

申込み
フォーム



講師 PROFILE

SEMINAR 1

「外国人」とともに生きる、私たちのこれから

新居 みどり (にい みどり) さん

NPO 法人国際活動市民中心 (CINGA) コーディネーター

早稲田大学大学院文学研究科修了。東京外国語大学多言語多文化教育研究センター (現：多言語多文化共生センター)、国際移住機関 (IOM) コンサルタントを経て 2011 年から現職。

CINGA では対外的なネットワークづくりや新規事業の立ち上げなどを担当。

SEMINAR 2

日本人も「移民」だった ～移動の歴史から考える多文化共生～

長村 裕佳子 (ながむら ゆかこ) さん

ノートルダム清心女子大学 国際文化学部 講師

ブラジル・パラナ連邦大学大学院修士課程修了、上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科博士後期課程満期退学 (国際関係論博士)。専門は中南米への日本人移民史、社会学。ブラジルの邦字新聞「ニッケイ新聞」記者、茨城 NPO センター・コモンズ外国人支援担当コーディネーター、JICA 緒方貞子平和開発研究所研究員などを経て現職。

編著書：『多文化共生と民族的マイノリティ 近現代日本をめぐる「人の移動」の歴史から』(2025 年、明石書店)、『移動の歴史と日系ルーツ トランスナショナルな経験からみる紐帯と文化』(2025 年、不二出版) ほか。

Check!!



申込方法

財団ホームページの申込みフォーム (表面 QR コードからアクセスできます)、
または FAX・メールにてお申し込みください。

お申し込みの際には、以下の内容をご記入ください。

- ① 希望のセミナー (「『外国人』とともに生きる、私たちのこれから」または「日本人も『移民』だった～移動の歴史から考える多文化共生～」)、② 氏名 (ふりがな)、③ 電話番号、④ メールアドレス、⑤ お住まいの自治体 (市区町村のみ)、⑥ ご所属 (任意) を明記の上、「『外国人』とともに生きる、私たちのこれから」は 2026 年 8 月 22 日 (土) まで、「日本人も『移民』だった～移動の歴史から考える多文化共生～」は 2026 年 9 月 23 日 (水) までにお申し込みください。



FAX 番号

045-620-0025



申込み用メールアドレス

tabunkares-2026@kifjp.org